

調査の概要

1 調査の目的

廃棄物処理計画等廃棄物行政を推進していくためには、ごみ量を把握することはもちろんのこと、ごみ質の把握も不可欠な要素である。

また、循環型社会を目指し、ごみの減量資源化の流れを推進していくためには、ごみの資源化量、可燃量、及び破碎可能量等を把握することは最も基本的な要素である。

本調査は、

- (1) 基礎的な物理組成を明らかにし、資源化可能な量、焼却可能な量、破碎可能な量の把握
- (2) 燃えるごみ、燃えないごみ、缶・びん・ペットボトル、容器包装プラスチックの排出形態を明らかにすることにより、市民のごみ排出ルールの遵守度の把握及び減量効果の検討
- (3) 資源化可能なもの（空缶・空きびん等）の個別量の把握を主な目的として実施するものである。

本報告書は、平成30年度に実施した調査の結果を分析したものである。

2 調査の概要

(1) 調査期間

平成30年10月24日～12月5日

(2) 調査対象ごみ量

・ 燃えるごみ	2,359 kg
・ 燃えないごみ	1,111 kg
・ 缶・びん・ペットボトル	643 kg
・ 容器包装プラスチック	333 kg
計	4,445 kg

3 調査の方法

- ・ 各区で1ステーションずつ調査対象ステーションを選定した。
- ・ 調査対象ステーションからごみを指定した調査場所へ搬入した。
- ・ 手順は図1に示すとおりである。
- ・ 紙類の一部、容器包装プラスチック材については、汚れの付着の有無による分類を実施した。

一般調査

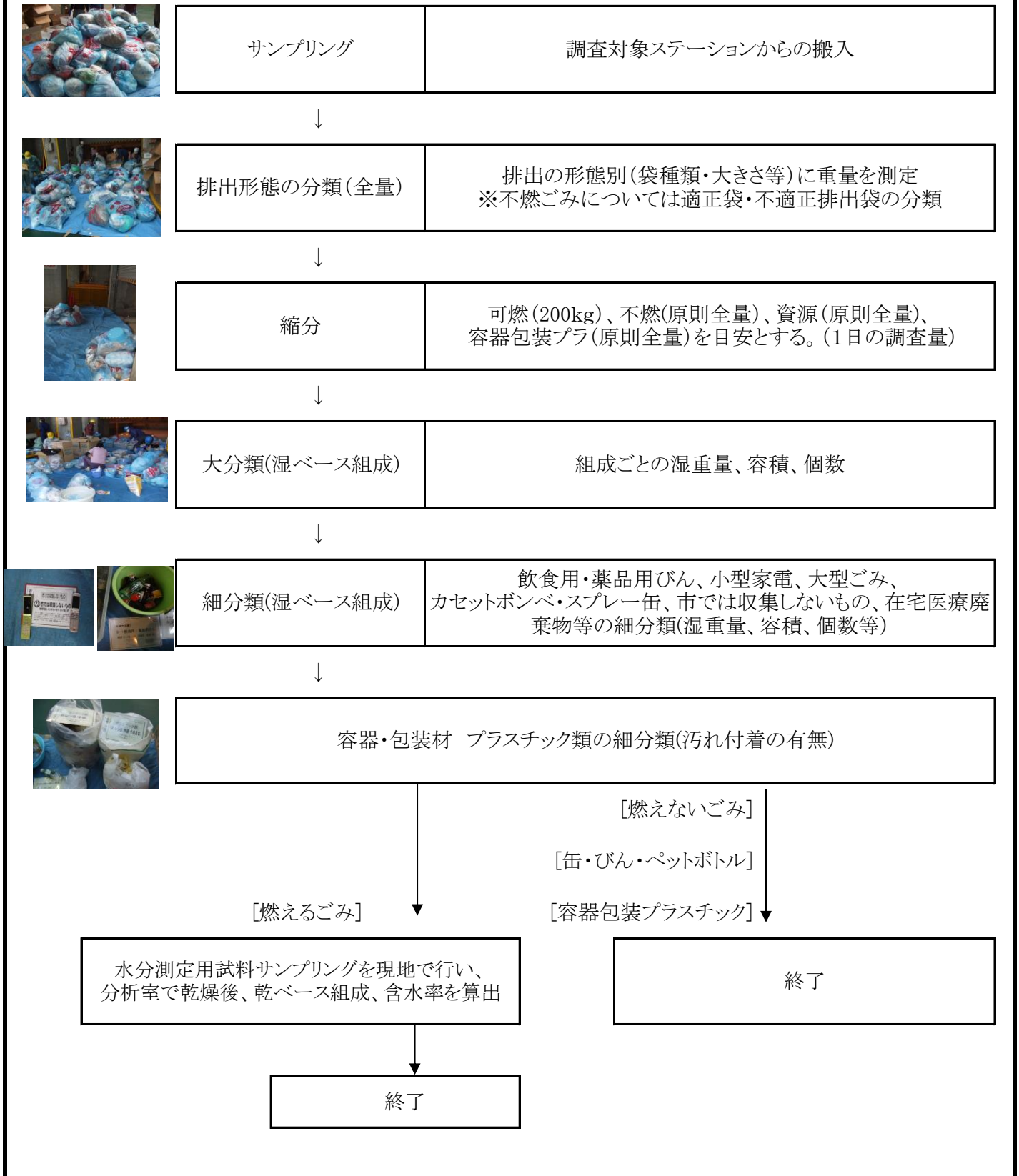


図 1 組成調査方法